

株式会社ネットワークド



株式会社 ネットワールド

〔本 社〕東京都千代田区神田神保町2-4

〔設 立〕1990年8月1日

〔資 本 金〕5億8500万円

〔売 上〕376億円(2009年12月度)

〔従業員数〕323名(2009年12月度)

〔事業内容〕

サーバー、ネットワーク、ストレージなどITインフラに関する製品を統合し、システムインテグレータなどのパートナー企業と顧客に提供。あわせて、コンサルティングやインテグレーション、保守サポート、認定技術者教育など、幅広い分野でサービスを行う。



株式会社ネットワークド
情報システム室
主任
清水 俊幸 氏

新基幹システムに「Senju Family」を採用 DBサーバを含むすべてのサーバーを仮想化・統合 ハードウェアからアプリケーションまでの 統合監視・管理で安定稼働を実現 障害時における運用の自動化も視野に

ITインフラのソリューション・ディストリビュータである株式会社ネットワークド。同社では、販売、購買、財務およびパートナー向けの販売店支援といった基幹システムの全面再構築を実施し、新システム「CUVE」を稼働させた。仮想環境を全面的に採用した同システムの運用管理には「Senju Family」を採用。ハードウェアからハイパーバイザー、OS、アプリケーションにいたるまでのすべてのレイヤーを網羅する統合的な運用監視を行うことで、システム全体の稼働に関する高度な安定性を確保。あわせて、万一の障害への速やかな対応も実現している。

■提供する製品や技術を自社システムでショーケース化

ITインフラに関するソリューション・ディストリビュータとして知られるネットワークド。急速な発展を続けるIT環境をめぐるユーザーのニーズに応えるべく、常に革新的なIT基盤製品の提供とサービス&サポートを柱として事業を展開している。

同社がユニークなのは、仮想化やストレージ、バックアップ、ネットワーク、セキュリティなどの分野の技術者を数多く擁し、先進的な技術製品を活用したソリューションの提案に多くのリソースを割いている点だ。

「そうした活動を通じて、より大きな付加価値をお客様に提供するとともに、パートナー企業にとっても、なくてはならない組織を目指しています」と同社情報システム室 主任の清水 俊幸氏は語る。

先頃同社では、従来SAP R/3で稼働させてきた販売、購買、財務、およびパートナー向けの販売店支援システムといった基幹システムの再構築を敢行。2010年9月23日から、本格稼働を開始した。同社の技術とノウハウを結集させた新しい基幹システムの名称は「CUVE(Cloud computing、Utility computing、Virtual environment、E-business:キューヴ)」。パートナーの多様な要望や様々な販売形態に対応するとともに、取扱い製品の拡大といった動向にも応えられる柔軟性の高いシステム基盤を目指している。

「新システムの重要なテーマの1つは、当社の付加価値を可視化すること。つまり提供する製品や技術を自社システム上でショーケース化することで、ソリューションの導入を検討されるお客様に、より具体的な活用イメージを抱いていただきたいと考えています」と清水氏は説明する。

CUVEの最大の特徴となっているのが仮想環境を全面的に採用している

Senju Family User Reports

株式会社ネットワールド

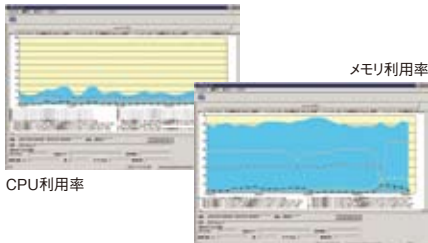
点だ。具体的には、販売、購買、財務などの基幹システムには「VMware vSphere 4」を、パートナー各社に対し製品の見積もりや在庫状況の確認などの便宜を提供する支援システムには「Hyper-V」を、それぞれ適材適所に配する形で仮想環境を構築。従来稼働させていた計29台のサーバーを7台の物理サーバーに集約した。

■仮想環境を含むあらゆるレイヤーでの統合的な運用管理を実現

こうした新たな基幹システムの稼働に伴って、ネットワールドではシステムの運用管理の形態も刷新。「特にCUVEでは、パートナー各社に向けた支援システムもリニューアルしており、外部ユーザーの利用を考慮すると、24時間365日のシステム稼働を支えられる運用管理の実現が不可欠だと考えました」と清水氏は語る。

一般に仮想化を採用したシステムでは、運用管理が複雑化し、物理環境とは異なる運用管理ノウハウが必要となる。そこで同社では、仮想マシンごとのCPUやメモリの利用率といった稼働状況はもちろん、仮想マシンが動作する物理サーバーの稼働状況も合わせた統合的な監視を実現。データベース単体、アプリケーション毎、物理サーバ単位などに細分化された十数種類の稼働レポートを定期的に作成し、それに基づき詳細に物理環境、仮想環境の状況を総合的に捉えられる環境を整備している。定期レポートによる仮想化システムの見える化により、経営層に対する仮想化のメリットを定量的に報告できている。

稼働レポートのサンプル



加えて、障害対応に関しても、ログ監視の自動化をベースに速やかな対応をとれるような仕組みを構築。具体的には、様々なログを系統的に監視し、仮に異常を検知した際には、メールなどでシステム管理者に障害発生を自動的に通知することで、管理者が必要に応じて、仮想マシンの再起動などの対応をスムーズに行える体制をとっている。

「このようにCUVEでは、従来の単純な物理システムよりも、はるかに詳細にシステムの状況を監視し、把握できるようにしています。システム

全体を俯瞰して、リソースの状況を容易に見極められるため、余裕のあるリソースを負荷の高い他のシステムに割り当てたり、必要なリソースを随時追加していくなど、システム全体の最適化を継続的に図っていく環境が整いました」と清水氏は強調する。

■混在した仮想環境を物理レイヤーまで含めて透過的に管理できる点が決め手

ネットワールドにおけるこうした運用管理において中核的な役割を担っているのが統合システム運用管理ツール「Senju Family」だ。同社では、CUVEの構築に当たって「Senju Family」の採用をいち早く決定した。

その採用理由として、清水氏はまず最初に「使い易さ」をあげる。「インストールや各種設定がきわめて容易で、監視対象のノードを追加するといったことも手軽に行えます。特別なスキルも一切必要ないので、管理者が変わった際などにもスムーズに対応することができます。また、国内ベンダーが開発したツールである点も重要なメリットです。日本の企業では、きめ細かな手順にともなった運用が求められます。その点、運用現場の実情に即してデザインされた「Senju Family」であれば、我々のニーズを満たしてくれます」と清水氏。さらに、万の際の速やかなサポートが期待できる点も高く評価したという。

加えて、「Senju Family」が仮想環境をマルチサポートしている上、物理環境も含めたトータルな運用管理が可能な点も重要なポイントとなった。

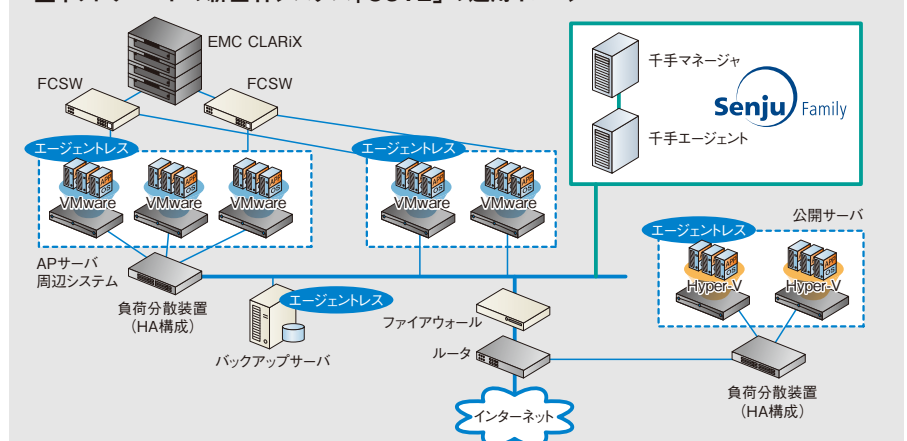
CUVEでは現状でVMwareおよびHyper-Vという複数の仮想化ソフトを利用しているが、「Senju Family」であればこの両方をカバーしている上、今後、さらに異なる仮想化ソフトを採用する場合でも、柔軟に対応していくことが可能だと判断した。また、「Senju Family」が物理サーバーやハイパーバイザー、仮想マシンにエージェントを導入することなく監視、運用が行える点も、管理者の作業負担やライセンスコストの削減という観点で大きな魅力を感じたという。

■さらなるブラッシュアップにより次世代基幹システムのモデルを示す

今後同社では、再構築したシステムの運用を通して、安定性や性能といった観点から、仮想環境の基幹システムに求められる要件を検証し、そこで得られた成果を顧客の提案にも大いに活かしていく考えだ。「そのためにも、『Senju Family』を中核にしたシステム運用管理の強化を継続的に図っていくが必要だと考えています。近い将来、ハイパーバイザーや仮想マシンの起動・停止といった仮想環境の制御など、システム障害時の復旧をはじめとする運用管理の自動化を進めていく予定です。こうしたシステムのブラッシュアップをさらに進めることで、次世代基幹システムの1つのモデルを提示していければと思います」と清水氏は今後の抱負を語る。

仮想環境をベースにした同社の運用管理において、「Senju Family」に期待される役割はより大きいものとなっていくだろう。

■ネットワールドの新基幹システム「CUVE」の運用イメージ



「Senju Family」を活用し、物理サーバと仮想サーバのリソース管理、ログ監視、ジョブの稼働状態管などを実施。安定したシステム運用を実現している。また、仮想マシンにエージェントを導入することなく監視・運用が行えるため、作業負担やコストの削減にもつながっている。

※本文中に記載の社名、部署名、ご担当者名等は取材時点のもので

NRI 未来創造
野村総合研究所

Senju インフォメーションセンター

〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134 NRIタワー

TEL. 0120-736-580 FAX. 0120-736-581

E-mail: senjuinfo@nri.co.jp

http://senjufamily.nri.co.jp/

※このパンフレットに記載された会社名、製品・サービス名はそれぞれ各社の商標もしくは登録商標です。
※このパンフレットに記載された内容は、2010年11月現在のものであり、当社は予告することなく製品・サービスの仕様および価格を変更し、または提供・販売を中止することがありますことをご了承ください。

Copyright© 2010 Nomura Research Institute, Ltd
管理番号:61-0044-01-1011